

○御神札は、どんなところにおまつりすればよいですか？

- ・目線より高い場所（棚の上など）が理想ですが、無理のない範囲でおまつりしましょう。（神棚が無い場合は、白い紙や布を敷いておまつりしましょう）
- ・方向は南向きか、東向きが理想ですが、一番身近で清潔な場所がよいでしょう。



簡易神棚を使って棚の上に



簡易神棚を使って壁(柱)に



半紙を敷いて

○何を供えたらよいですか？

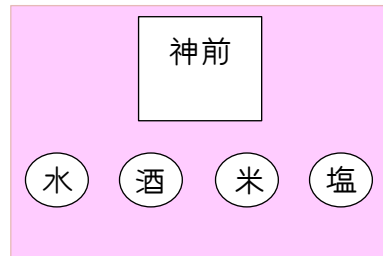
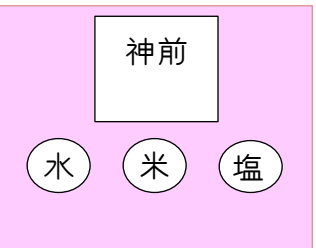
- ・基本的には、中央に「米」、向かって右に「塩」、左に「水」をお供えします。
- ・お酒をお供えする場合は、下の図を参考にしてください。
- ・お供え用の器は、神棚専用になれば、形式にとらわれなくてもよいでしょう。
- ・折敷などに載せる場合は、奥側から順となります。
- ・お供えは、毎日が理想ですが、月の初めや中ほどに供えるようにしてもよいでしょう。
- ・お正月や特別な日には、餅や季節の物なども、お供えするとよいでしょう。

○御神札は、毎年新しく受けましょう。

- ・神様は清らかにまつられることで、御神威(おちから)が高まります。
- ・お正月を迎えるにあたり、神棚をきれいにお掃除して神社からお受けした新しい御神札をおまつりし、来るべき新しい年も、家内が無事平安であるようにお祈りしましょう。
- ・今までおまつりしていた古い御神札は、過去の一年間が無事に過ごせたことを感謝して、神社に御礼参りをして納めます。
- ・(神札・お守りをお返しする時期や方法は、神社によって異なります。)「確認下さい」

○親族・家族に不幸があった場合、御神札を受けることは出来ますか？

親族・家族の死を悼むのは大事な心の問題ですが、一般的に四十九日（神道では五十日）が過ぎれば「忌明け」となり、御神札をお受けすることができます。



ご自宅に合ったまつり方を探しましょう。最近、モダンな神棚もあります。

